



校長室だより

第6号

令和7年8月26日
大阪市立新東三国小学校
校長 岩井 伸夫

◇◇ 平和について ◇◇

今年の夏休みは、昨年度以上の40度を超すところもある酷暑続きの日々でした。熱中症対策をとりながらの厳しい夏となりました。戦後80年。今年も平和について考える日がありました。8月6日のヒロシマ原爆投下の日には、こども代表による平和への誓いが読みあげられました。

いつかはおとずれる、被爆者のいない世界。

同じ過ちを繰り返さないために、多くの方が事実を知る必要があります。

原子爆弾が投下されたあの日のことを、思い浮かべたことはありますか。

昭和20年（1945年）8月6日 午前8時15分。

この広島に人類初の原子爆弾が投下され、一瞬にしてあたり前の日常が消えました。

誰なのかが分からないくらい皮膚がただれた人々。

涙とともに止まらない、絶望の声。

一発の原子爆弾は、多くの命を奪い、人々の人生を変えたのです。



被爆から80年がたつ今、本当はつらくて、思い出したくない記憶を伝えてくださる被爆者の方々から直接話を聞く機会は少なくなっています。

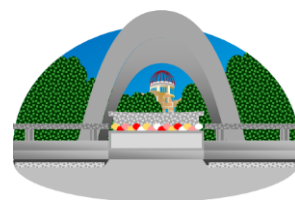
どんなに時が流れても、あの悲劇を風化させず、記録として被爆者の声を次の世代へ語り継いでいく使命が、私たちにはあります。

世界では、今もどこかで戦争が起きています。

大切な人を失い、生きることに絶望している人々がたくさんいます。

その事実を自分のこととして考え、平和について関心をもつこと。

多様性を認め、相手のことを理解しようとする。



一人一人が相手の考えに寄り添い、思いやりの心で話し合うことができれば、傷つき、悲しい思いをする人がいなくなるはずです。

周りの人たちのために、ほんの少し行動することが、いずれ世界の平和につながるのではないでしようか。

One voice. たとえ一つの声でも、学んだ事実思いを込めて伝えれば、変化をもたらすことができます。

大人だけでなく、こどもである私たちも平和のために行動することができます。

あの日の出来事をヒロシマの歴史を、二度と繰り返さないために、私たちが、被爆者の方々の思いを語り継ぎ、一人一人の声を紡ぎながら、平和をつくり上げていきます。

令和7年（2025年）8月6日

こども代表

ひろしましりつみなみしょうがっこう 6年 関口千恵瑠

ひろしましりつきおんしょうがっこう 6年 佐々木 駿



この平和への誓いを、子どもたち一人一人が自分事として受け止めて、自分にできることを考えていてほしいと思います。

8月6日ヒロシマ原爆投下の日とともに8月9日ナガサキ原爆投下の日、8月14日京橋大空襲、8月15日終戦記念日。これらは、平和を願い、子ども達に語り継いでいかなければならない日です。テレビや新聞などでも戦争や平和に関する報道が多くありました。平和を願っている現在でも、ロシアによるウクライナ侵攻、イスラエルとガザ地区の問題など、世界では人々の平和が脅かされる事態も起こっています。戦争は遠いところの話ではなく、この大阪の町も爆撃を受け、多くの方が亡くなったことや焼け野原になったこと、食べるものや着るものもなく、住むところもなくした多くの人々がいたことなど、お子さんに伝えてあげてほしいです。そして、焼け跡から立ち上がった人々の努力の積み重ねによって、現在の日本があることも伝えていただきたいです。何もせずに平和を守ることはできません。平和は、平和を求める人々の努力の上に築かれるものです。

学校でも、平和の大切さや命の尊さについて様々な場面で伝えていますが、ご家庭でもお子様の年齢に応じて話していただければと思います。



熱中症対策のため

- ◎ 水分補給をしっかりととれるように、水筒には多めに
お茶やお水を入れてきましょう。
- ◎ 8、9、10月はランドセルではなくリュックサックなどで
登校してもかまいません。

